

# 角膜透明化分子を発見

京都府立医大  
同大グループ 治療薬開発に道

角膜の透明性を保つ

のに不可欠なタンパク質を、京都府立医科大の木下茂教授や同志社大生命医科学部の中村隆宏准教授のグループが見つけた。角膜の病気やけがの治療薬の開発につながる成果で、米科学誌「ジャーナル・オブ・クリニカル・インベスティゲーション」で10日発表する。

人体で唯一、透明な

組織である角膜は、外部から光を取り入れる「窓」の役割を果たしている。病気やけがで白濁すると失明の恐れがあるが、透明性が保たれる仕組みはよく分かっていなかった。

グループは、角膜上皮の幹細胞で働くタンパク質LRIG1に着目した。マウスを使った実験で、このタンパク質をなくすと角膜が

白濁し失明することを確認した。このタンパク質は、免疫反応を担うタンパク質STAT3の働きを制御し、炎症の発生を抑制することで透明性を保つことも突き止めた。

LRIG1をなくしても、STAT3の阻害剤を点眼すれば透明性を維持できることも確かめた。中村准教授は「将来のiPS（人工多能性幹）細胞を使

った角膜の作製で、LRIG1が角膜ができたこと目の目印となり、品質評価に使えるのではないか」と話している。

(松尾浩道)